

## 消費関数

国内総生産が増えると最終消費需要が増える。その関係を消費関数という。消費関数は、一国の有効需要の決定に重要な役割を果たす。

### I. 有効需要原理

#### A. 国内総生産 (GDP) 決定の理論

1. 有効需要 (effective demand): 総需要と総生産が等しくなるときの総需要
2. GDP の大きさは有効需要の大きさによって定まる

#### B. 総需要の構成要素 —— 閉鎖経済の場合

1. 最終消費需要
2. 投資需要 (資本形成のための生産物需要)

### II. 最終消費需要

#### A. 家計部門の最終消費需要

##### 1. 家計部門の最終消費需要が総需要に占める割合

###### a. 民間最終消費支出が国内総支出 (国内総生産) に占める割合

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
55.2	56.0	57.0	56.2	57.1	57.7	57.5	57.1	57.0	57.1

###### b. 家計最終消費支出が民間最終消費支出に占める割合

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
98.3	98.1	97.9	98.1	98.1	98.0	97.9	97.8	97.7	97.7

##### 2. 家計部門の最終消費需要を決定する要因

- a. 家計部門の可処分所得 (個人可処分所得)
- b. 消費財価格

#### B. 家計部門の消費関数

##### 1. 家計部門の実質可処分所得と実質消費支出の関係 (消費財価格の変動の影響を除去)

###### a. 実質可処分所得の増加が実質消費支出に与える影響

実質可処分所得の増加 → その増分にほぼ比例して実質消費支出が増加

- b. 自律消費支出 : 可処分所得の水準と独立に定まる消費支出

##### 2. 消費性向

###### a. 限界消費性向 marginal propensity to consume

$$\frac{\text{消費支出の増分}}{\text{可処分所得の増分}} \quad (\text{日本の場合, 通常は } 0.8 \text{ 程度})$$

###### b. 平均消費性向 average propensity to consume

$$\frac{\text{消費支出総額}}{\text{可処分所得}} = \frac{\text{自律消費支出}}{\text{可処分所得}} + \text{限界消費性向}$$

- ・平均消費性向は限界消費性向より大きい。
- ・平均消費性向は可処分所得が大きいほど小さい。

### III. 経済全体の消費関数

$$C = C_0 + cY, \quad C_0 > 0, \quad 1 > c > 0$$

$C$	:	国民最終消費支出
$Y$	:	国内総生産 (GDP)
$c$	:	限界消費性向
$C_0$	:	自律消費支出

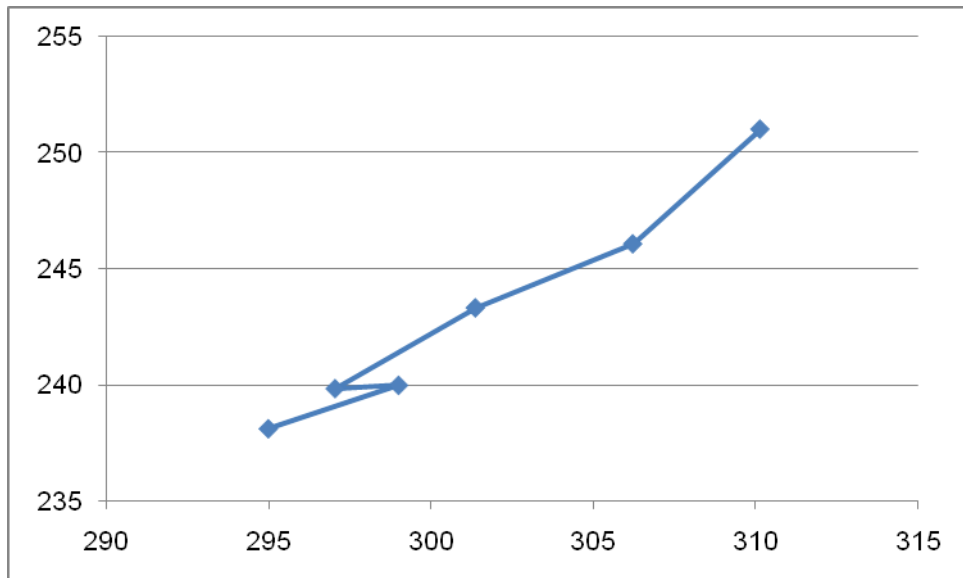
### 参考文献

教科書・第 2 章, とくに 41-52 ページ.

# 消費関数

日本, 2001--2006年 (2000年価格, 兆円単位)

家計部門の実質可処分所得と実質最終消費支出の関係



$$C = 2.1 + 0.80Y_D$$

実質 GDP と家計部門の実質可処分所得の関係

